

第3章 現状と課題からみるまちづくりの方向性

基本構想の位置付けを踏まえ、田村駅周辺における課題を整理するとともに、まちづくりの方向性から都市の将来像及びまちづくりの進め方について、以下に示します。

(1) 田村駅周辺の課題

課題1

定住できる環境(とくに若い世代)を整える必要がある

今後、「人口流出のダム機能」としての夜間人口の定着のためには、住宅機能だけではなく、とくに若い世代が安心して子どもを産み育てていくことができる生活基盤を整え、「定住できる環境」をつくっていく必要があります。

課題2

日々の生活を支えるにぎわいと活力を高めていく必要がある

田村駅周辺には、日常の生活利便機能が少なく、東西市街地の交流も少ない状況ですが、この改善を単にいわゆる「ハコモノ」の商業施設の導入のみに頼るのではなく、田村駅周辺としてのまちの暮らしを支えていくための“日常のにぎわいや活力”を高めていく工夫が必要です。

課題3

まちなかに存在する既存の資源を最大限に 生かしていく必要がある

田村駅周辺は、大学、企業、自然などの他の地域にない、特徴的な資源が豊富ですが、つながりがありません。今後のまちの発展に向けて、こうした資源の活用により、「田村ならではの」というまちづくりをアピールしていく必要があります。



(2)まちづくりの方向性(ビジョン)

定住できる環境づくりに向けては、日常の生活利便機能を充実させていくことが重要

**日常ニーズが満たされ、活があり
多世代が定住できる魅力的なまち**

子育て層などの若い世代が住みたいと思いい、高齢者も安心して自立できる、生活に必要なサービスが行き届き、活があり、多世代にわたり誰もがいきいきと暮らせるような魅力的なまちを目指します。

にぎわいと活力創出に向け、まず、市街地の東西の連携・連絡を強化し、人の行き来をしやすくすることが重要

**バリアフリーが行き届き、安全で
誰もが安心して暮らせるまち**

田村駅周辺は、鉄道により市街地が東西に分断され、駅もバリアフリー未対応のため、市街地東西方向の連携が弱い状況です。今後は、東西の往来を高めるとともに交通環境や防災・防犯など、安全で誰もが安心して暮らせるまちを目指します。

市街化区域だけの検討ではなく、周辺の自然や農地をどう生かしていくか、どう守っていくか検討していくことが重要

**周辺に自然や農地などの緑が残り
環境と調和し、居心地がよいまち**

田村駅周辺は、ランドマーク田村山をはじめ、農地や湖などの自然環境に恵まれ、風情ある町並みを残しています。今後、市街化を目指す一方、このような、のどかで居心地のよい環境とうまく調和したまちを目指します。

「選ばれるまち」に向けて、「ここでしか味わえない暮らし」をアピールしていくことが重要

**地域資源と多様な主体がつながり
「地域力」が向上されたまち**

大学、企業、農地など、田村地域のもつ特徴のある多様な資源、人材等を最大限に活用し、様々な人が集まり、主体同士や資源、新たな力が自然につながる。そんな新旧がうまく融合し「コミュニティ」や「地域力」が高いまちを目指します。

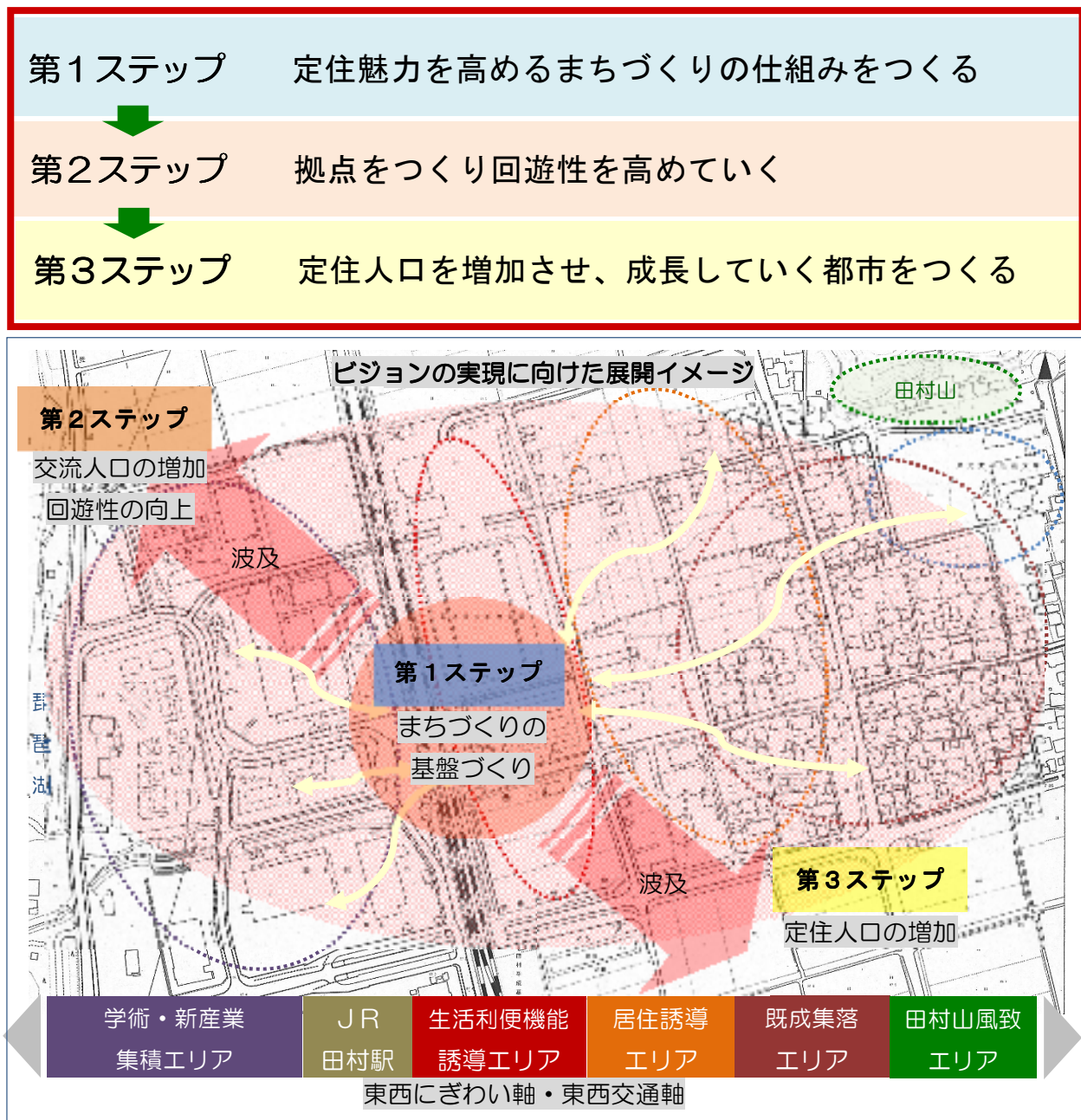
■都市の将来像 **ひとにやさしい 自然にふれあえる都市**

■まちづくりの進め方 **多様な主体で育てる“成長都市”**

～ **産・官・学・金・労・言による一体型まちづくり** ～

田村駅周辺におけるまちづくりに当たっては、継続的にまちの活性化を図れるよう、単に施設整備や施設誘導といったハード整備だけに頼るのではなく、産・官・学・金・労・言といった多様な主体が協働して段階的、持続的に“まち”を育てていくという姿勢「まち育て」の視点に立った取組を進めることとします。

(3)まちづくりの方向性(ビジョン)のイメージ図



第4章 まちづくりの取組

基本構想区域における整備に当たっては、まずは田村駅を中心とする既存の市街化区域において、第1章で整理したエリア別のまちづくりの目標に即した整備を行うことを基本とし、その進捗を踏まえながら、更に周辺部での整備を検討していくこととします。

(1)既存市街化区域における導入機能

田村駅近傍の田村駅東地区、田村地区、駅西側の特別用途地区について、エリア別のまちづくりの目標を踏まえ、エリアごとに導入する機能とその考え方を以下に示します。